

実エンドウの整枝に関する研究

太田 敏雄*・米田 英世*

ÔTA, T. and YONEDA, H. Studies on the Control of Branches of Green Pea.

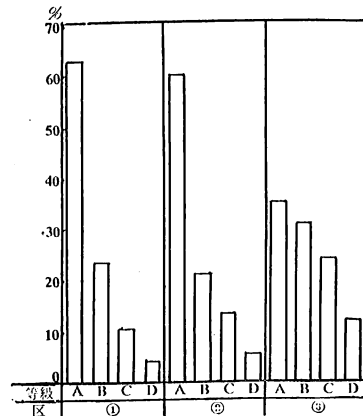
実エンドウの栽培において整枝を行うことが生育・収穫期・収量・上莢歩合等に如何なる効果をもたらすかを検討する目的で、鹿児島県喜入町において1959年10月7日に黒汐を2.2m×0.4mの1株立てで栽培し、① 主枝+1次分枝4本、② 主枝+1次分枝4本+2次分枝4本、③ 無整枝の3区を設けて調査を行い一応の傾向を得たので報告する。

成績及び考察

蔓の伸長は主枝では強い整枝を行う程寒害がひどく伸長を抑制せられているが、各次分枝は整枝の強い程伸長良好である。之は栄養条件の良くなるためと考えられる。又病害や膨腫も整枝によつて通風、日照等の良好なために少くなることが認められる。次に収穫期については整枝によりかなりの促進が見られるが、之も栄養条件の好転によるものと思われる。

1株当り収量は第2表のように整枝の弱い場合節節数が多く、従つて莢重共に多いが、一莢平均重はその逆で整枝の強い程稔実・充実の良好なことがうかがわれる。又第1図により整枝の強い程上莢歩合の高まる事が明らかに見られる。之等については一部寒害による摘心的効果も考えられるが、整枝による各枝えの

第1図 収穫物の等級別歩合(重量)



栄養補給の好転と云うことが直接の大きな原因と考えられる。又間接的には日照・通風等の環境条件の良くなつたことも勿論プラスしていると考えられる。

以上の結果から整枝の効果は明らかになつたが、実用上からは更に株間との関連において検討する必要がある。

第1表 生態調査成績

区	項目	節 数					開花始	取 穫			寒 害	病 害	膨 腫		
		主 枝	1次分枝	2次分枝	3次分枝	4次分枝		総節数	始	盛				終	
①		35.3	27.9	—	—	—	111.4	1.11	3.18	4上	4.22	+	少	少	少
②		40.8	24.0	15.4	—	—	157.5	1.11	3.18	4上	4.22	+	少	少	少
③		47.0	15.9	13.2	5.6	3.4	307.9	1.11	4.2	4中	4.22	+	多	多	多

第2表 収穫調査成績(1株当り)

区	項目	総莢数	総莢重	A 級		B 級		C 級		D 級		1莢平均重	A級莢平均重
				莢 数	莢 重	莢 数	莢 重	莢 数	莢 重	莢 数	莢 重		
①		51.2	426.6	25.1	266.5	13.6	98.0	7.8	44.8	4.7	17.3	8.3	10.6
②		115.3	817.5	53.9	490.5	25.1	172.5	22.5	109.0	13.8	45.5	7.1	9.1
③		195.2	1,143.0	48.5	397.0	56.5	345.5	53.7	269.5	36.5	131.0	5.9	8.1

(註) A級は5粒以上, B級は4粒, C級は3粒, D級は2粒以下の莢。

* 鹿児島県農業試験場